

新興国レポート

4月のインドCPI上昇率は前月より減速

5ヵ月連続でRBIの許容上限である6%を下回る

- ▶ 4月のインドCPI（消費者物価指数）上昇率は前年同月比+4.3%と、3月の同+5.5%から減速。
- ▶ CPIの落ち着きや新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化懸念等を背景に、RBI（インド準備銀行）の追加利下げ期待が高まる可能性も。
- ▶ 同期待等を背景にインド10年国債金利が低下傾向を続け、株価を下支えすることも考えられる。

(1) 4月のインドCPI上昇率は3月より減速

- インド統計局が5月12日発表した2021年4月のCPI上昇率は前年同月比+4.3%と、3月の同+5.5%から減速し、5ヵ月連続でRBIが許容範囲の上限に定める6%を下回りました。CPIの約4割を占める食料品価格の上昇率が同+2.0%と、3月の同+4.9%から低下したことがCPIを押し下げました（図表1）。

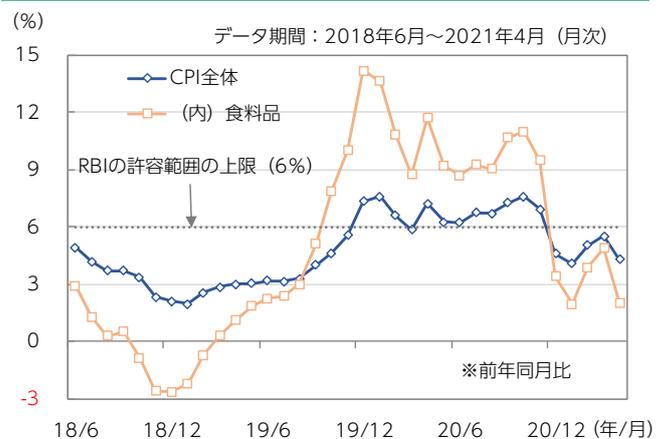
(2) 新型コロナウイルス新規感染者数高止まり

- インドの新型コロナウイルスの1日当り新規感染者数（7日間平均）は5月16日時点で約34.1万人と高止まりしており（図表2）、保健当局は各州に医療体制強化を促しています。こうした状況を背景に、デリー準州とハルヤナ州が当初17日までの予定であった都市封鎖を1週間延長する等、複数の州で同様の動きが広がりつつあります。
- インドは世界最大の新型コロナウイルスワクチン生産国ですが、感染の急拡大による生産現場の混乱等からワクチン供給が追いつかない状況となっているようです。インド政府は8月頃までに3億人に接種することを目指しています。5月16日時点で少なくとも1回接種を受けた人の数は約1.4億人（総人口の約10%）ですが、ワクチン供給の遅れで計画の達成を危ぶむ声も出始めています。接種の遅れは景気に悪影響を及ぼすおそれがあります。

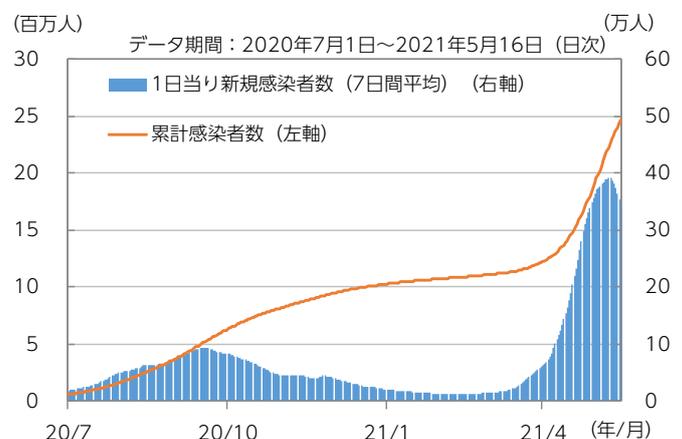
(3) RBIの追加利下げ期待が高まる可能性も

- RBIは、景気の回復見通しや物価の先行きに対する懸念等を背景に、政策金利を直近の4月会合まで5回連続で据え置いています。
- CPIが落ち着いて推移していること、感染拡大による都市封鎖で景気回復が遅れる可能性があること等を背景に、市場では次回6月4日の会合で景気刺激を目的にRBIが追加利下げに踏み切るとの期待が高まる可能性があります。同期待等を背景に、インド10年国債金利は当面低下傾向を辿り、その動きは株価を下支えするものと思われます（図表3）。

図表1：インドCPIの推移



図表2：インドの新型コロナウイルス感染状況



図表3：インド10年国債金利と株価の推移



出所) 図表1～3はCEIC、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>